

# 年金積立 インターナショナル・ボンド・ファンド

## <愛称 DC Iボンド>

追加型投信／海外／債券

### 交付運用報告書

第17期（決算日2018年4月25日）

作成対象期間（2017年4月26日～2018年4月25日）

第17期末（2018年4月25日）	
基準価額	17,611円
純資産総額	528百万円
第17期	
騰落率	4.1%
分配金（税込み）合計	10円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

#### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「年金積立 インターナショナル・ボンド・ファンド」は、2018年4月25日に第17期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、「ベスト・バランス／海外債券マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な観点から、シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）の動きを上回る投資成果の獲得をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

### 日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号  
<http://www.nikkoam.com/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

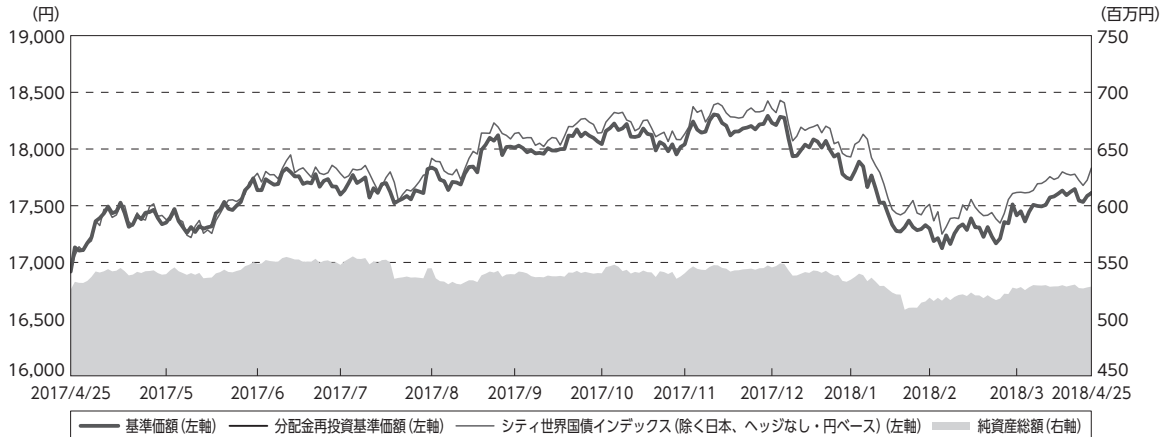
コールセンター 電話番号：0120-25-1404  
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

## 運用経過

## 期中の基準価額等の推移

(2017年4月26日～2018年4月25日)



期首：16,919円

期末：17,611円 (既払分配金(税込み)：10円)

騰落率： 4.1% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびシティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)は、期首(2017年4月25日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) シティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)は当ファンドのベンチマークです。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、「ベスト・バランス/海外債券マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な観点から、シティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)の動きを上回る投資成果の獲得をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

## &lt;値上がり要因&gt;

- ・北朝鮮情勢の緊迫化によるリスク回避の動きが強まったこと。
- ・欧州中央銀行(ECB)が量的緩和策の縮小ペースについて慎重なスタンスを示したこと。
- ・円安/ユーロ高、円安/イギリスポンド高が進行したこと。

## &lt;値下がり要因&gt;

- ・米国において利上げが実施されたこと。
- ・米国の税制改革法案の発表を受けて景気の拡大期待やインフレ期待が高まったこと。
- ・円高/アメリカドル安が進行したこと。

## 1 万口当たりの費用明細

(2017年4月26日～2018年4月25日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	229	1.296	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	( 96)	(0.540)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(124)	(0.702)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
(受託会社)	( 10)	(0.054)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	7	0.041	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	( 6)	(0.035)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	( 1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	236	1.337	
期中の平均基準価額は、17,692円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

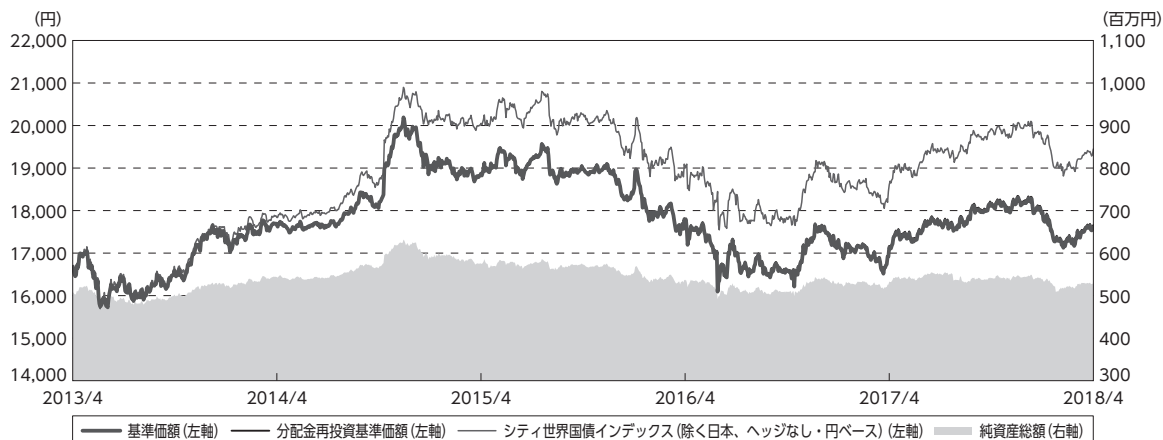
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2013年4月25日～2018年4月25日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびシティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)は、2013年4月25日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2013年4月25日 決算日	2014年4月25日 決算日	2015年4月27日 決算日	2016年4月25日 決算日	2017年4月25日 決算日	2018年4月25日 決算日
基準価額 (円)	16,674	17,663	18,824	17,792	16,919	17,611
期間分配金合計(税込み) (円)	—	10	10	10	10	10
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	6.0	6.6	△ 5.4	△ 4.9	4.1
シティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)騰落率 (%)	—	7.0	12.2	△ 4.6	△ 3.3	5.4
純資産総額 (百万円)	508	543	574	537	525	528

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) シティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)は当ファンドのベンチマークです。

## 投資環境

(2017年4月26日～2018年4月25日)

## (債券市況)

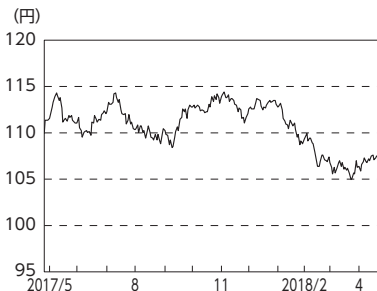
海外債券市場では、米国、ドイツ、英国など各国の10年国債利回りは、期間の初めと比べて、総じて上昇（債券価格は下落）しました。

期間の初めから2017年9月上旬にかけては、ECB総裁が金融緩和政策を微調整する可能性を示唆したことなどが利回りの上昇要因となったものの、米国連邦準備制度理事会（FRB）議長がインフレ率は利上げが必要となるような状況ではないと言及したことや、北朝鮮情勢の緊迫化によるリスク回避の動きが強まったことなどをを受けて、各国の10年国債利回りは総じて低下（債券価格は上昇）しました。9月中旬から12月中旬にかけては、ECBが量的緩和策の縮小ペースについて慎重なスタンスを示したことなどが利回りの低下要因となったものの、米国の税制改革法案の発表を受けて景気の拡大期待やインフレ期待が高まったことや、FRB議長が米国景気は拡大しているとの認識を示したことなどから、各国の10年国債利回りは概して上昇しました。12月下旬から期間末にかけては、米国大統領の保護主義的な貿易政策の発表を受けて世界的な貿易を巡る懸念が広がったことなどが利回りの低下要因となったものの、ECBの政策理事会議事録の発表を受けてECBが金融緩和策を早期に縮小する可能性があるとの見方が広がったことや、FRBが追加利上げを決定したこと、米国雇用統計にて賃金の伸びが市場予想を上回り、利上げペースが速まるとの見方が広がったことなどをを受けて、各国の10年国債利回りは総じて上昇しました。

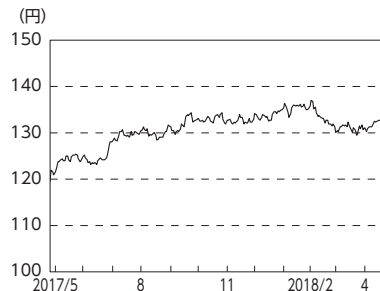
## (為替市況)

期間中における主要通貨(対円)は、右記の推移となりました。

円／アメリカドルの推移



円／ユーロの推移



## 当ファンドのポートフォリオ

(2017年4月26日～2018年4月25日)

## (当ファンド)

当ファンドは、「ベスト・バランス／海外債券マザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないました。

## (ベスト・バランス／海外債券マザーファンド)

債券ポートフォリオは、各国の経済・財政状況や国債の供給動向などから金利動向や各国間の金利格差を予測し、国別投資比率を機動的に調整して運用を行ないました。期間中、オーストラリアなどの債券をオーバーウェイトポジションとする一方、イギリスなどの債券をアンダーウェイトポジションとしました。

通貨配分戦略は、投資先各国の金利差とファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）の動向を見ながら、主要通貨を中心にポジションを調整しました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2017年4月26日～2018年4月25日)

期間中における基準価額は、4.1%（分配金再投資ベース）の値上がりとなり、ベンチマークである「シティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)」の上昇率5.4%を概ね1.2%下回りました。

ベンチマークとの差異における主な要因は以下の通りです。

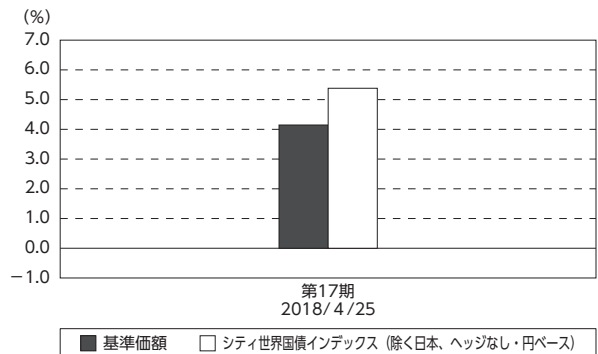
## &lt;プラス要因&gt;

- ・ドイツの債券をオーバーウェイトとしたこと（2017年8月、2018年3月）。
- ・アメリカの債券をオーバーウェイトとしたこと（2017年7月）。

## &lt;マイナス要因&gt;

- ・ドイツの債券をオーバーウェイトとしたこと（2018年1月）。
- ・イギリスポンドをアンダーウェイトとしたこと（2017年9月）。
- ・アメリカドルをオーバーウェイトとしたこと（2017年7月）。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）は当ファンドのベンチマークです。

**分配金**

(2017年4月26日～2018年4月25日)

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## ○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第17期
	2017年4月26日 ～2018年4月25日
当期分配金	10
(対基準価額比率)	0.057%
当期の収益	10
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	9,257

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

**今後の運用方針****(当ファンド)**

引き続き、ファンドの基本方針に則り、「ベスト・バランス／海外債券マザーファンド」受益証券を原則として高位に組み入れて運用を行ないます。

**(ベスト・バランス／海外債券マザーファンド)**

引き続き、主として日本を除く先進各国の政府、政府機関などの発行する債券を中心に分散投資を行ない、国内債券より相対的に高いインカムの確保をはかるとともに金利低下や格付け上昇に伴うキャピタルゲインの獲得を狙い、「シティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)」を上回る投資成果をめざして運用を行なう方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## お知らせ

2017年4月26日から2018年4月25日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

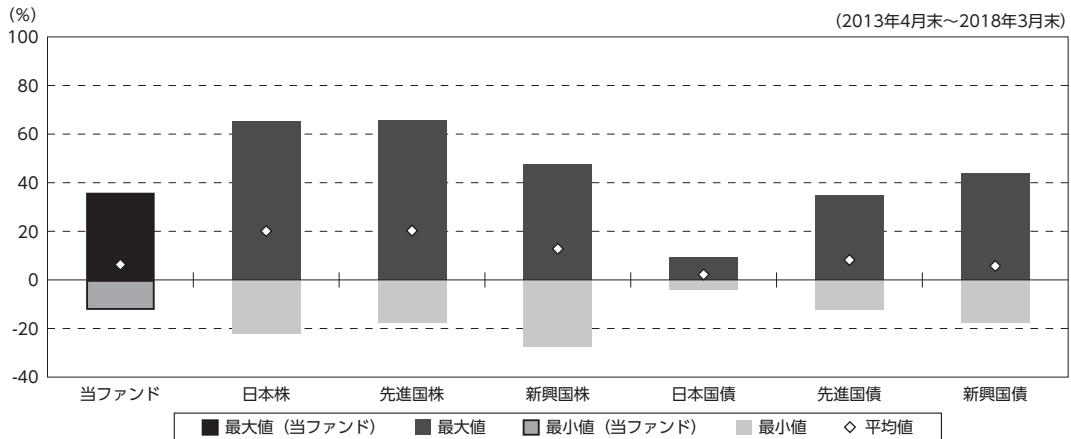
## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2001年10月25日から原則無期限です。	
運用方針	主として「ベスト・バランス／海外債券マザーファンド」受益証券に投資を行ない、「シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）」を上回る投資成果をめざします。	
主要投資対象	年金積立 インターナショナル・ボンド・ファンド	「ベスト・バランス／海外債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	ベスト・バランス／海外債券マザーファンド	海外の公社債を主要投資対象とします。
運用方法	主として、「ベスト・バランス／海外債券マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な観点から、シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）の動きを上回る投資成果の獲得をめざして運用を行ないます。主として日本を除く先進各国の政府、政府機関などの発行する債券を中心に分散投資を行ないます。投資対象国は、原則としてOECD加盟国の中からA格相当以上の長期価格付が付与された国とし、シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）採用国を中心とします。ポートフォリオの見直しは随時行ない、各国の政治、経済動向の変化や市況動向、リスク分散などを勘案して、国別の投資比率の変更やデューレーション調整などを行ないます。	
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。	



## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	35.9	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	△12.3	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4
平均値	6.3	20.1	20.3	12.8	2.2	8.2	5.7

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2013年4月から2018年3月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

## 《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI国債は、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。なお、野村証券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。●JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

## 当ファンドのデータ

### 組入資産の内容

(2018年4月25日現在)

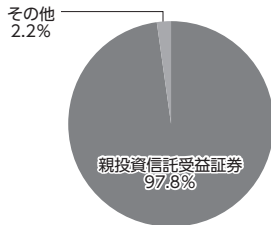
#### ○組入上位ファンド

銘柄名	第17期末
ベスト・バランス／海外債券マザーファンド	97.8%
組入銘柄数	1銘柄

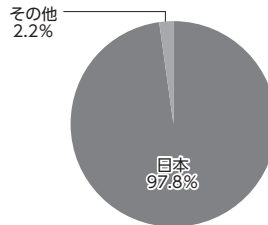
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

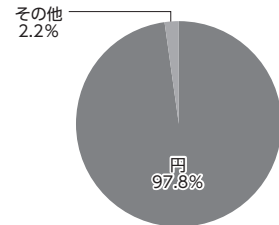
#### ○資産別配分



#### ○国別配分



#### ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

### 純資産等

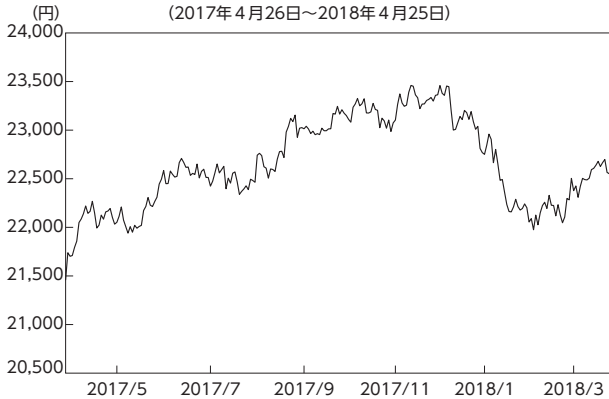
項目	第17期末
	2018年4月25日
純資産総額	528,710,943円
受益権総口数	300,216,541口
1万口当たり基準価額	17,611円

(注) 期中における追加設定元本額は30,065,215円、同解約元本額は40,729,172円です。

組入上位ファンドの概要

ベスト・バランス／海外債券マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万円当たりの費用明細】

(2017年4月26日～2018年4月25日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (保管費用)	8 (8)	0.036 (0.036)
合計	8	0.036

期中の平均基準価額は、22,608円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万円当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2018年4月25日現在)

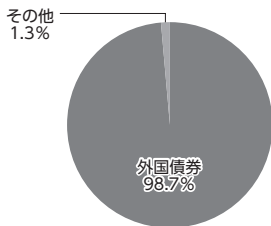
銘柄名	業種／種別等	通貨	国(地域)	比率
1 FRANCE (GOVT OF) 3.5% 2026/4/25	国債証券	ユーロ	フランス	16.5%
2 BK NEDERLANDSE GEMEENTEN 1% 2026/1/12	特殊債券	ユーロ	オランダ	7.5
3 US TREASURY N/B 2.75% 2028/2/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	7.4
4 BUONI POLIENNALI DEL TES 4.5% 2026/3/1	国債証券	ユーロ	イタリア	6.7
5 EXPORT-IMPORT BANK KOREA 2.375% 2019/8/12	特殊債券	アメリカドル	韓国	5.7
6 NYKREDIT REALKREDIT AS 2% 2025/1/1	普通社債券	デンマーククローネ	デンマーク	5.4
7 NETHERLANDS GOVERNMENT 0.75% 2027/7/15	国債証券	ユーロ	オランダ	4.5
8 BONOS Y OBLIG DEL ESTADO 1.45% 2027/10/31	国債証券	ユーロ	スペイン	4.2
9 TSY INFL IX N/B 2% 2026/1/15	国債証券	アメリカドル	アメリカ	3.0
10 REPUBLIC OF AUSTRIA 0.5% 2027/4/20	国債証券	ユーロ	オーストリア	2.7
組入銘柄数		39銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

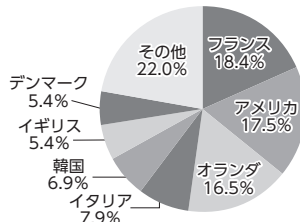
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

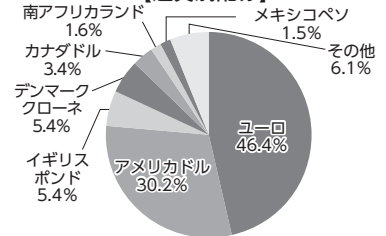
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。